

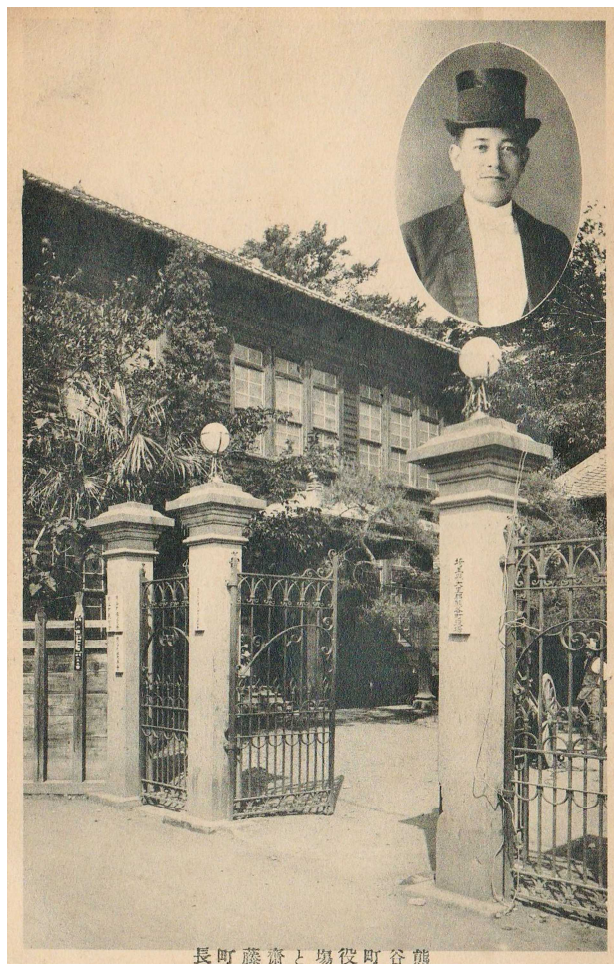
公民館の創世期 3

青島一雄

昭和 25 年、市役所が移転した跡へ熊谷市公民館が設置された。大正 9 年から女子補修学校→実習女学校そして戦后市役所の跡の木造二階建て、床は板張りで各室間は廊下がなく戸一枚、だから行事によっては音が筒抜けであるが、展示や映画等の設営には惜しみなく釘を使えて便利であった。冬の夜にダルマストーブを囲んで受講生と語り合ったことなど懐かしい。

成人学校で自動車運転の科目を設けたところ、たいへんな人気で申込受付日には行列ができる程であった。当時は自動車学校や教習所が無かったし、仕事に機動力が求められ来た時代であったからでもあったのだろう。しかし、公民館に車は無いので事業所等を廻って借用方を頼んでやっどダットサンと三菱トラックを揃えた。始めたところ、エンストはするし、ギアは

噛む、故障続きで貸与先から断られるのは当然であった。面倒を見てくれたダットサン販売会社は車の貸与だけでなく、講師（技術と構造）も派遣してくれた。更に市警察署（国警察署も別にあった）の交通課長さんが法規の講義を引き受けてくれただけでなく、課程修了後、大宮の試験場まで引率して団体受付の便宜を図ってくれるなどのご協力のおかげで、たしか百名以上の免許取得者が誕生した。現在は中央公園になっている前の富士見中学校前の広場へ、試験場に似せたコースを石灰で書いたり、坂の実習のために見晴公園脇の堤へ教室を移動したことなどを思い出す。



(熊谷市公協だより 第 28 号 平成 10 年より)